

開講科目名 Course	証券市場論研究 (A) / Securities Markets (A)
時間割コード Course Code	13960
開講所属 Course Offered by	会計学研究科博士前期課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2021年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	水 / Wed 5
開講区分 semester offered	前期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	野村 重明
科目区分 Course Group	関連科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	野村 重明 (会計学研究科修士課程)
授業の目標	

授業の概要	<p>【授業の概要】</p> <p>授業の目標 (学習成果)</p> <p>知識・理解の領域</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.金融とはどのようなことを意味しているのかを理解すること。 2.証券市場と他の金融市場との本質的な相異を理解すること。 3.日本の証券市場は、高度成長期から1990年代までどのような構造的特質を持ちながら展開してきたのかを知ること。 4.1990年代末から近年にかけて日本の証券市場は歴史的な転換を遂げたが、それはどのようにしてなのか、またどのような問題が残っているのかを考える手がかりを得ること。 <p>関心意欲の領域</p> <ol style="list-style-type: none"> 5.新聞・雑誌その他のメディアで知ることのできる証券市場に係る様々な指標に眼を向け、経済の動向を見ることができるようになること。 <p>授業の概要</p> <p>1980年代後半の経済バブルが90年代初めに崩壊した後、日本の金融システムは大きく転換した。それは、明治初期、第二次大戦後に匹敵する大転換期であったと言ってもよい。</p> <p>本講義では、まず、経済・経営系の大学院生としては必須の知識として、証券市場を含む様々な金融市場の特徴・役割を概観した後、銀行業務と証券業務とはどう異なるのかを説明する。</p> <p>次いで、戦後長く続いた銀行・証券分離政策の下で、証券市場はいかなる特徴的な構造を持ちつつ高度成長を支えたのか、その構造が国債の大量発行の下でいかに変化したのか、について解説する。</p> <p>さらに、1990年代以降、銀行と証券の垣根が崩れていくのと並行して、多くの業務分野規制も取り払われ、様々な業者による金融業務（特に証券業務）への参入が進んだこと、それに伴って金融業務規制も従来の規制とは異なった規制が要求され、また現実には新たな規制がなされるに至っていること、を説明する。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 授業の概要、研究姿勢、参考書について</p> <p>第2回 金融とは</p> <p>第3回 銀行と証券</p> <p>第4回 戦後日本の金融システムの形成</p> <p>第5回 高度成長と金融・証券</p> <p>第6回 国債を抱いた経済</p> <p>第7回 国債の大量発行と公社債市場の拡大</p> <p>第8回 金利自由化と業務規制の緩和</p> <p>第9回 金融ビッグバンー金融仲介機関の機能麻痺と証券市場の改革</p> <p>第10回 金融危機下の金融システム改革（1）</p> <p>第11回 金融危機下の金融システム改革（2）</p> <p>第12回 金融業務への参入と新たな金融商品の登場</p> <p>第13回 新たな投資サービス規制の必要性</p> <p>第14回 金融商品取引法の概要</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験を実施する。</p> <p>【評価方法】</p> <p>受講状況と提出されたレポートで評価する。</p>
評価方法	
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	
授業計画	
テキスト	使用しないが、講義のなかで興味を持ったテーマについて、関連文献を読むことによって、自身で知識を深めるように努めて下さい。
参考書	講義の際に、関連文献を紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	

フィードバックの方法	
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	
使用言語	
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	